

令和7年 秋季俳句講座

「私と季語（6）」

第3回 西山 睦

「季語の恩恵」

歳時記の始まりは「民の生活の技術」の紹介。

よりよく生活し食べるための季語は前向き。

季語に励まされた句を紹介しながら、季語の恩恵について考える。

主催 公益社団法人俳人協会

西山睦 略歴

一九四六年 宮城県多賀城市生まれ

一九七八年 「駒草」入会 阿部みどり女に師事

その後「駒草」を継承した八木澤高原、蓬田紀枝子に師事

二〇〇三年 「駒草」主宰

二〇〇五年より河北俳壇選者

現在、公益社団法人俳人協会常務理事 日本文藝家協会会員

二〇二五年度「NHK俳句」選者

句集『埋火』『火珠』『春火桶』（二〇一二年句集宮城県芸術選奨受賞）

俳人協会自註句集『西山睦集』

共著『女流俳句の世界』

季語の恩恵（私と季語）

一、はじめに

季語は実に雄弁。季節を表す言葉だけではない。
衣食住生活全般、人の生き死にに関わる。

一、『齐民要術』（せいみんようじゆつ）を知る。



齊民要術

千五百年前の中国魏の時代の農書

齊民は庶民のこと

どうやって食べ物を増やし人口を増やすかという切実な書。瓢箪の葉の幼いものは煮て食べられるとか少ない収穫物を食べ尽くす方法。医療見術も未発達の時代收穫量を増やすのは人を豊にすること

歳時記は人が生活してきた知恵を集めたもの。

前向き、季語は本来好日性を持つと知る。

雉の眸のかうかうとして売られけり

楸邨

一、季語「からむし」



からむし畑



からむしの葉

小田急線沿線に昔の暮らしを知ってもらうために畑を持っている人が、今もひと畝栽培している。

柳田國男著『木綿以前の事』

木綿は鎌倉時代・武士が兜の下に着る肌着が麻から木綿になって死ぬ人が減った。

一、季語「誘蛾灯」私が初めて知った季語・五歳
阿部みどり女が多賀城へ螢見へ訪れた時

やがてみどり女の「駒草」誌を後年継ぐとは夢にも思わず

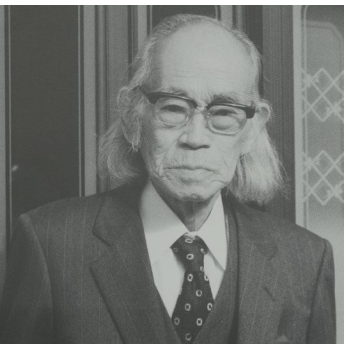


阿部みどり女

◎みどり女の話をしする。素描で鍛えた。

・例句としてみどり女が中村汀女宅を訪れた時の句

篠竹は四五本秋雨の塀はすぐ みどり女『微風』



・みどり女を訪れていた佐藤鬼房

重陽の夕焼に逢ふ幾たりか みどり女『月下美人』

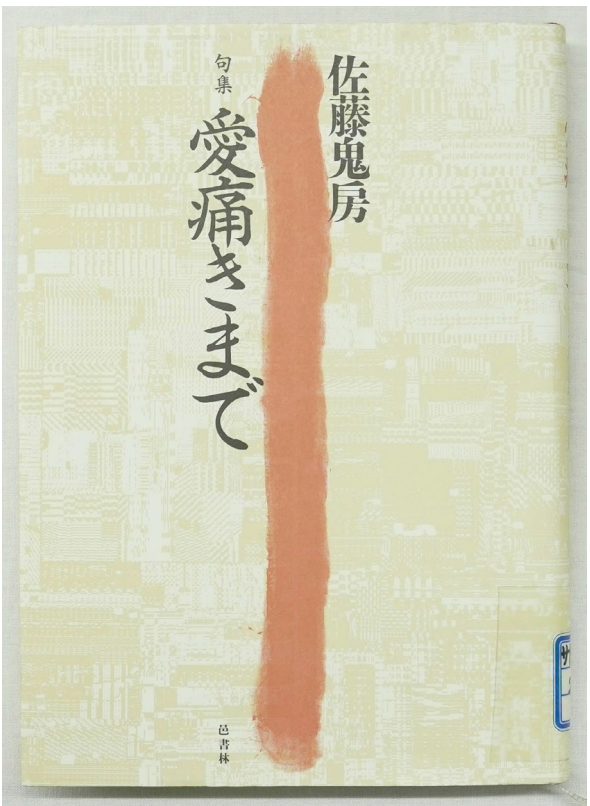


鬼房はみどり女人恋の句として鑑賞したが、鬼房の句も
また人を恋う句であった。

一、季語「麦の芽」

麦の芽が今日このごろの抛まき

佐藤 鬼房 『愛痛きまで』



麦の芽の頃、周りは殺伐とした枯色。潤うのは麦の芽の緑だけ。
句そのもののやさしでもあるが「麦の芽」の強さに私自身主宰
を引き継いだ後の繁忙期にはこの句が沁みた。
季語そのものが持つ力に助けられた。

一、みどり女の素描できたえた句はある時ある場所を刻印する。
地味だが揺るぎない。季語の持つ力を糧に俳句を詠んでいき
たい。

九十の端を忘れ春を待つ

みどり女

令和7年 秋季俳句講座

「私と季語(6)」

◆ 第1回講師 — 小林恭二

動画配信日 10月7日(火)

◆ 第2回講師 — 宮坂静生

動画配信日 10月14日(火)

◆ 第3回講師 — 西山 睦

動画配信日 10月21日(火)

◆ 第4回講師 — 今井 聖

動画配信日 10月28日(火)